

## 学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

# QAPHE国際シンポジウム2019 専門職高等教育の質保証と資格枠組 アンケート結果

2019年11月26日に行われた国際シンポジウムで  
実施したアンケート結果を紹介した文書です

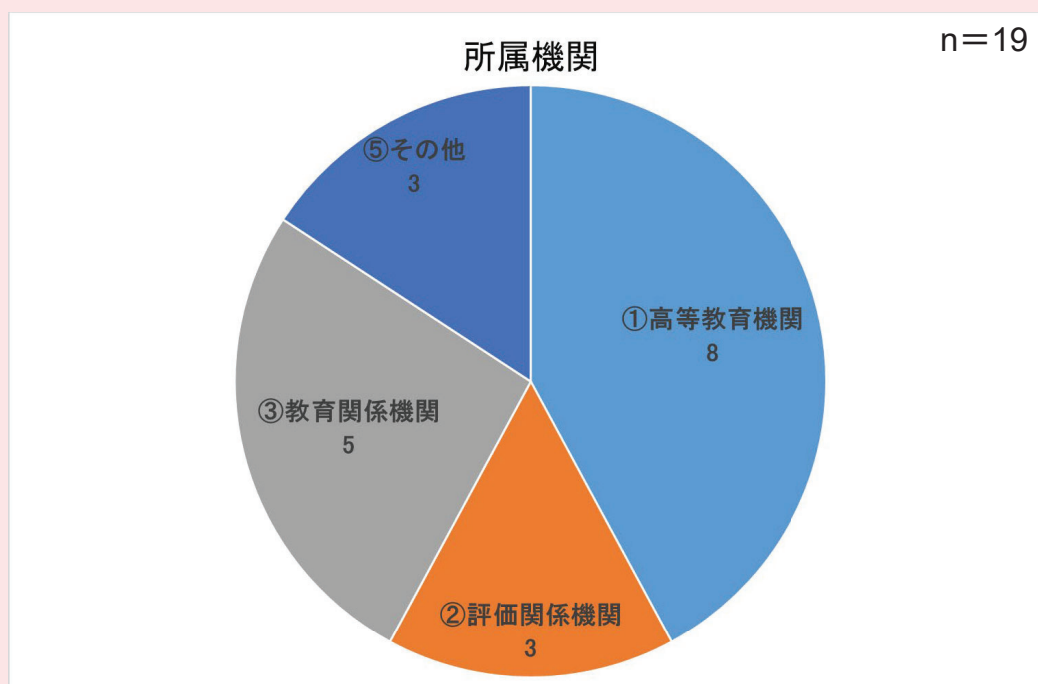
## 一般社団法人専門職高等教育質保証機構

2019年12月20日

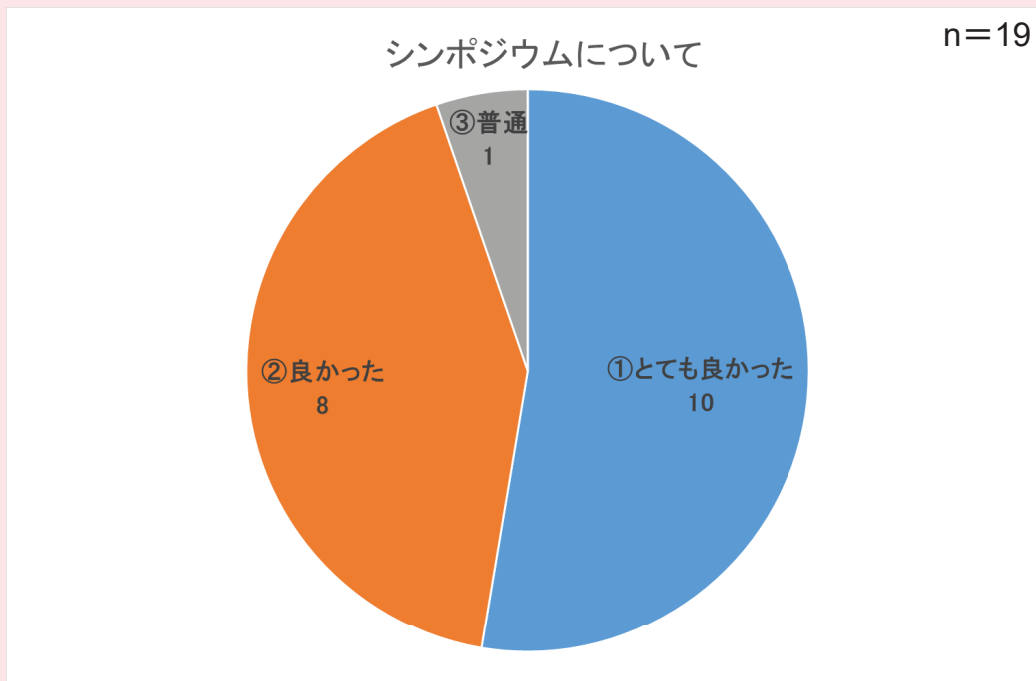
### 参加者



- 一般参加申込者 30名 (うち 専修学校関係者 18名)
- その他参加者 8名



■ 1人を除いて「とても良かった」「良かった」  
→高い評価をいただいた



2

## 全体評価のフリーアンサー

- 参加して良かった。大変勉強になりました。
- ・資格枠組と質保証の関係、学術と職業教育のブリッジなど、大変勉強になりました。
- ・QFをテーマにしたのは、とても意義あることだと思いました。
- 行政、学校、評価側(日、マレーシア、香港)教育サービス産業の異なる視点からの見解は面白かった。
- 外国の例で日本の状況が浮き彫りになったのはよかったと思う。"
- 他国の取り組みがよくわかりました。
- 久しぶりの本格的な国際シンポジウムでした。
- 最先端の動向がわかり大変勉強になりました。大きく進んだと驚く面がある一方で、昔からの問題が相変わらず残っていると思いました。少しずつ道具立てや社会的条件も揃いつつあると思います。これからは勝負だと思いました。
- 色々な国、分野の現状、課題が知れて、大変興味深かった。
- ・改めてASEANの連携が理解できました。
- ・その上で、日本の実態が悲観的に思えました。
- ・HongKongのお話はとても勉強になりました。

3

- 香港のC.Ng女史の説明において、専門職教育においてレベル設定や教育ステップが実に上手く構築されていることに関心を持ちました。
- このような仕組み(プラットフォーム)を作るのが日本(人)は実に下手と感じますが、素晴らしい事例が隣国にあるにも関わらず、それを取り込もうとしなかった理由は一体どこにあるのでしょうか？とても勉強になったシンポジウムでした。
- マレーシア、香港の先進的な事例が伺えてよかったです。
- ASEANの動向を大変興味深く聴かせていただきました。
- ASEANの動向が聞け大変良かったと思います。
- きちんとした制度的なご説明のもと、日本と香港、ASEANの比較ができました。日本制度、職業教育の目的がさらに体系立てて理解できました。

- (右のような図を描いていただいた方も)



- 学修成果が単位・卒業よりも大事である点であり、知識、スキル、態度(+コンピテンシー)を獲得したかを測り評価するシステムの構築が重要と感じた。
- 資格、学修成果について、評価をどのようにするかは課題
- 今回のテーマは学内で共有したいテーマであるが、私が説明しきれののかなと思いました。
- SDGs
- 文科省の今後の取り組み、課題について
- 各施策がどのように受け止められているか、様々な視点からコメントが聞けて有益であった。
- 中期の学園計画の設計にとっても参考になります。
- 教育の質保証の重要性を理解できたので、単に同業他校との差別化ではなく、第三者への客観的評価そのものとして取り組む主旨をもって、改めて自校のスタンスを確認したい。
- このご質問は正鵠を射ていると思います。現在既に、相当数の留学生を受け入れております。もっと考えてみます。

- 内容の深い、大変勉強になるシンポジウムでした。ありがとうございました。
- 日本版のQFを作るイニシアティブを取ってはどうか。大学と専修学校の接点を明確に、かつ容易にしないと、これからの少子化、人口減社会には対応が難しいと思う。
- 高校生の進路選択行動や企業の採用行動が大学／専門学校での学びやアウトカム・ベースになるには何が必要か。
- ありがとうございました。
- 香港、マレーシアを始めとしてASEAN諸国のQFの構築がすでに進んでいる中で、日本の取組みが先進国の中でも格段に遅れていることにショックを受けたシンポジウムでした。
- 数の上で乱立する大学、専修学校ですが、極めて教育の内容が学習者にとっては満足と感じられる環境になりとしても、あまり整備されてきていない状況かと思えます。
- ありがとうございました。